

竹島問題に関する調査・研究等に功績のあった 功勞者に対する感謝状贈呈者一覧

* 敬称略・五十音順

区分	氏名（年齢）	功 績
調査 協力	池田 和夫（75） 中本 文夫（82）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隠岐の島町在住。 ・ 明治 40 年竹島漁獵合資会社が建立した墓石の調査に協力いただいた。 ・ 2007 年に池田氏の情報提供により発見されて以来、行方不明となっていた墓石の再発見に繋がり、展示など竹島問題の関心を高める取組に活用された。 ・ 当該墓石は、竹島漁獵合資会社でアシカ猟に携わり、業務中に亡くなったとみられる従業員が社葬扱いとなったことを示す資料である。 ・ 竹島漁獵合資会社に関する資料は、戦後の筆写資料など僅かしかなく希少であり、竹島と隠岐漁民との関係を示すうえでも貴重な資料である。
証言	大西 富士夫（81）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隠岐の島町在住。 ・ 明治後期から大正期に、竹島で採介藻漁業を行った祖母クマ氏、祖父元次郎氏から聞いた竹島漁労の具体像について証言いただいた。 ・ 氏の証言により、5 年程度継続して 7 月から 8 月の間に竹島へ渡航し、小屋がけをして漁を行っていたこと、アワビやサザエのほかワカメが豊富に採れたことなど竹島漁労の実態が明らかとなった。 ・ 女性をはじめ多くの集落の漁師が竹島で漁業に関わり、竹島が隠岐の漁場として幅広い島民に認識されていたことを示す貴重な証言である。
資料 提供	楫ヶ瀬 孝（69）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浜田市在住、市内の北前船に関する現地調査の協力をいただく。 ・ 廻船問屋であった同家所蔵の「諸国御客船帳」（浜田市指定文化財）の資料提供をいただいた。 ・ 江戸中期から昭和初期まで浜田市外ノ浦に入港した廻船 8, 205 隻の国名や入港日、取引商品などが詳細に記述された資料で、明治後期に入港した船が鬱陵島と交易していた記録が発見された。 ・ 浜田と鬱陵島の交易の記録を裏付ける資料が市内で発見されるのは初めてであり、当時の海上交通の実態を知るうえでも貴重な資料である。
証言	灘 昌 助（97）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隠岐の島町在住。 ・ 大正初期に竹島でアワビ漁をした都万地区の虎尾才之丞氏から聞いた竹島漁労の具体像について証言いただいた。 ・ 氏の証言により、竹島へは順風で 18 時間程度要したこと、島には外国人の姿はなくアシカが多数いたことなど竹島漁労の実態が明らかとなった。 ・ 竹島への渡航には、日本の伝統的な木造船である「手安船」が使用され、同型船の写真を資料提供いただいた。 ・ 大正期の竹島漁労に関する記録や証言は希少であり貴重な証言である。
調査 協力	根平 雄一郎（73）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 境港市在住。竹島漁獵合資会社と取引をした海産物商中村市太郎の親族。 ・ 境港での中村市太郎商店の調査に協力いただいた。氏による資料収集や関係者への聞き取りにより、商店の跡地が特定されるなど現地調査が大きく進展した。また、中村市太郎に関する系図など貴重な資料を提供いただいた。 ・ 氏の証言により、竹島で捕獲されたアシカ肉を原料とする肥料が、境港で流通し使用されていた可能性が高いことが判明した。 ・ 1905 年の島根県編入後もアシカ猟が継続的に行われ、日本が持続的に竹島を実効支配していたことを裏付けるものである。

* 年齢は 2022 年 2 月 22 日現在

【参考】

知事感謝状贈呈 経緯

	特別表彰	資料提供	研究協力	証言	翻訳	啓発	計
H19. 2. 22	0	5	3	0	0	0	8
H20. 2. 22	0	4	0	4	0	0	8
H21. 2. 22	0	4	0	2	0	0	6
H22. 2. 22	0	1	0	1	0	0	2
H23. 2. 22	0	2	0	2	1	0	5
H24. 2. 22	0	3	0	0	0	0	3
H25. 2. 22	1	2	0	2	0	0	5
H26. 2. 22	0	3	0	2	0	0	5
H27. 2. 22	0	4	0	1	0	0	5
H28. 2. 22	0	1	2	0	0	0	3
H29. 2. 22	0	2	0	1	0	0	3
H30. 2. 22	0	2	0	1	0	0	3
H31. 2. 22	0	2	1	0	0	0	3
R2. 2. 22	0	2	0	2	0	1	5
R3. 2. 22	0	0	1	5	0	0	6
(今回)	0	1	2	2	0	0	5